

村上茉南さん(みらいと)

■ 活動内容

NPO法人「みらいと」事務局で、常勤スタッフとして連絡調整や事務全般を担当しています。

「みらいと」は、活動スタッフの多くが地域で事業を行っている事業主であり、地域に対する思いから、ボランティア色の強い活動を行っています。

■ 活動を始めたきっかけ

私は南相馬市小高区出身で、震災当日は大熊町で仕事をしていました。原発事故の影響で山形県へ避難し、避難生活を送っていました。震災から時間が経つにつれ、環境の変化に慣れ、働くという意欲をやっと取り戻し始めた頃、新地町の友達から「みらいと」を紹介されました。最初は地元へ戻ることへの不安や、NPO法人という今まで無縁だった職業に対し戸惑うこともありましたが、「みらいと」が地元住民の仲間たちで設立し、地域の共感を得ながら「自分たちの町は自分たちでつくる」という意識のもとに活動しているということを知り、平成25年3月に新地町に移り、「みらいと」で働き始めました。



「自分も新地町に元気づけられた。新地町に恩返しをしたい。」と語る村上さん



新地町にある「みらいと」の事務所



復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

震災で何をして良いのか分からなくなった時期もありましたが、「みらいと」のおかげで前向きになることができました。

支援する立場として、「受入れていただけますでしょうか？」と尋ねる姿勢が必要だと教えていただきましたし、支援される側、支援する側の一方だけが満足する活動では意味がないことも学びました。“自分も楽しみつつ、相手に喜ばれること”を常に意識しています。

物事の捉え方は人それぞれなので、自分は正論だと思っていることが他人を傷つける場合もありますし、言葉の使い方には注意をしています。

小高を離れ、友達と離れ離れになったことはつらく、今も一番の願いは昔の同級生たちに会うことです。ただ、今は、新地町で「みらいと」の活動に関わって、町づくりを学び、新地町に恩返しをしたいと思っています。

■ 復興庁について

普段身近に復興庁の方がいないためか、遠い存在だと思っています。助成金については、「**心の復興**」事業も申請しましたが、いつも申請書の作成に苦労します。小規模であっても、もう少し簡単に申請できるものがあれば助かると思います。



かつて村上さんと同じ学校の同級生で、今は同僚として働く復興支援員の佐々木さん(右)



手長明神のイラストがかわいい「みらいとタオル」(「みらいと」で販売中)